

はじめに

令和2年度の八女普及指導センターの活動の特徴は、まずコロナ禍への対応があげられます。令和元年12月に中国で初発し、翌年の1月15日には国内での感染が初めて確認されました。その後4月7日～5月14日、1月8日～2月28日には、本県にも緊急事態宣言が出され、いまだに終息の見通しはたっていません。普及指導センターの業務は、対面による活動が主体であるため、現在もコロナ禍に対応した新たな手法も取り入れながら活動しています。販売面では、コロナ禍の影響もあり花き、茶等の価格が低迷しました。気象面では4月の晩霜害、7月の長雨による冠水・土砂災害、8月の高温干ばつ、病害虫では水稻のウンカ多発等、生産に大きく影響しました。

このような状況の中、当センターでは、全体で取り組むプロジェクト課題2つと、各係で取り組む一般課題16の合わせて18課題について解決計画を策定し、生産部会・JA・市町等の関係機関・団体と連携して普及活動を展開しました。今回、その中から以下の7つの課題について活動成果をとりまとめました。

①八女地域の園芸産地をけん引する企業的経営体の育成

「八女地域農業経営アカデミー」を関係機関と連携して立ち上げ、11名の受講者にビジネスプランの作成支援等を行いました。

②活力あふれる中山間地域農業の構築

黒木地区の茶工場で全国から農作業に慣れた短期雇用者を確保し、茶の生産加工労力を補うとともに、中山間地における推進品目の導入・拡大を進めました。

③土地利用型担い手の経営基盤強化

集落営農組織等に対して支援を行い、3つの法人が営農ビジョンを策定するとともに、大規模個別農家の面積シェアが6.5%に拡大しました。

④新規栽培者確保と新技術導入によるナス産地の活性化

今年度の新規栽培者10名に対して技術習得を支援することで作付面積を維持しました。また、全量基肥施用による省力施肥技術導入者が9割となりました。

⑤出荷本数の確保による輪ギク産地の維持

技術情報の発信や展示ほ設置等により、炭酸ガス発生機導入農家数が8戸に増加し、作付面積3.3㎡当たりの出荷本数が133本に向上しました。

⑥生産性向上と後継者育成によるナシ産地の発展

優良品種「甘太」、「王秋」の導入推進により生産者が増加するとともに、青年部員を対象に個別指導カルテを作成し、各部員毎の課題解決に取り組みました。

⑦新たな担い手の確保と女性農業者の経営参画促進

関係機関とともに就農支援等に取り組み、過去2年半で84名が新規就農し、過去3年で女性農業者25名が経営ビジョンを作成し、経営参画意識が高まりました。

これらの成果を今後の農業経営の改善や地域農業の振興にご活用いただければ幸いです。